

立ヶ花地区 住民説明会

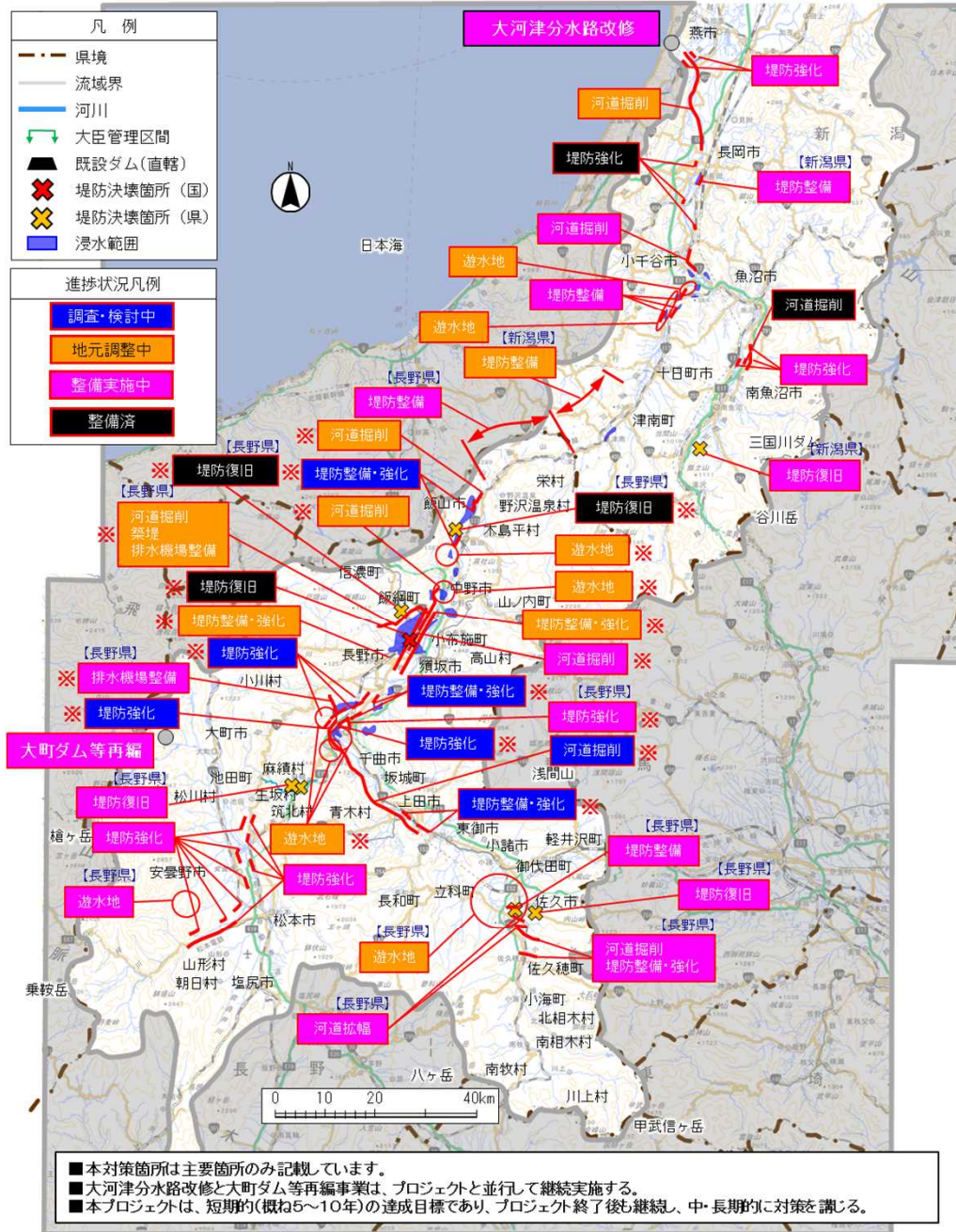
国土交通省 北陸地方整備局
千曲川河川事務所 千曲川緊急治水対策出張所

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～

【R2.9末時点】

○国・新潟県・長野県・信濃川流域の41市町村が連携し、令和2年1月に「緊急治水対策プロジェクト」を立ち上げ、『「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進』をスローガンに、水系全体で河川整備、流域対策・まちづくり、ソフト対策を一体的かつ緊急的に進める。



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和2年度は、決壊箇所の本格的な災害復旧や、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池等既存施設の有効利用(流域対策)、マイ・タイムラインの普及(ソフト施策)を進めています。

■河川における対策

全体事業費	約 1,768 億円【国:約1,227億円、県:約541億円】
災害復旧	約 586 億円【国:約 214億円、県:約372億円】
改良復旧	約 1,183 億円【国:約1,013億円、県:約169億円】

事業期間 令和元年度～令和9年度
 目標 【令和6年度まで】
 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における
 ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止
 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】
 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における
 ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化
 ※4捨5入の関係で合計値が合わない場合がある。

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



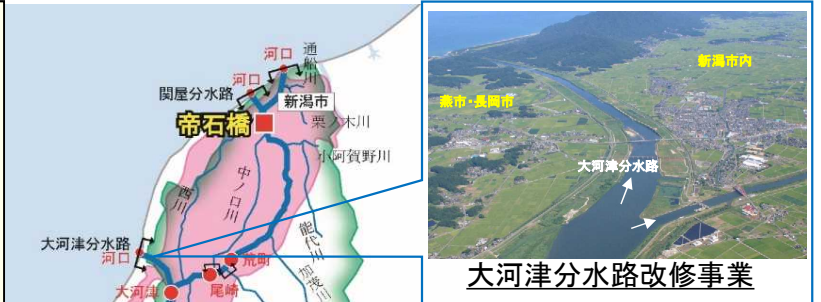
長野市穂保地先の堤防決壊、浸水被害状況
 新潟県小千谷市内における浸水被害状況
 ※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 主要対策の進め方

上下流や本川支川の信濃川流域全体を見据え、

- 立ヶ花狭窄部上流の緊急的な堤防強化（粘り強い河川堤防構造）
- 下流から計画的に行う堤防整備や河道掘削（大河津分水路改修、立ヶ花狭窄部掘削）
- 上流で洪水を貯留するダム（大町ダム等再編）や遊水地の整備

といった河川におけるハード対策をフル動員し、各管理者が連携・調整しながら、段階的かつ緊急的に対策を講じる。



大河津分水路改修事業



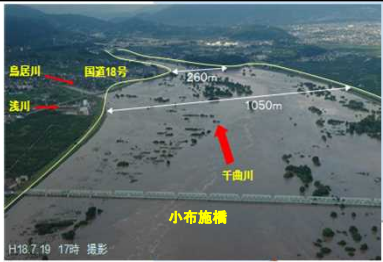
信濃川中流遊水地群



千曲川下流遊水地群



千曲川中流遊水地群



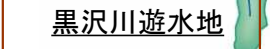
立ヶ花狭窄部掘削



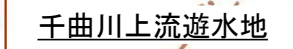
堤防強化(粘り強い河川堤防)



大町ダム等再編事業

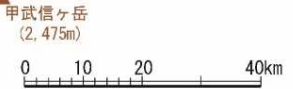


黒沢川遊水地



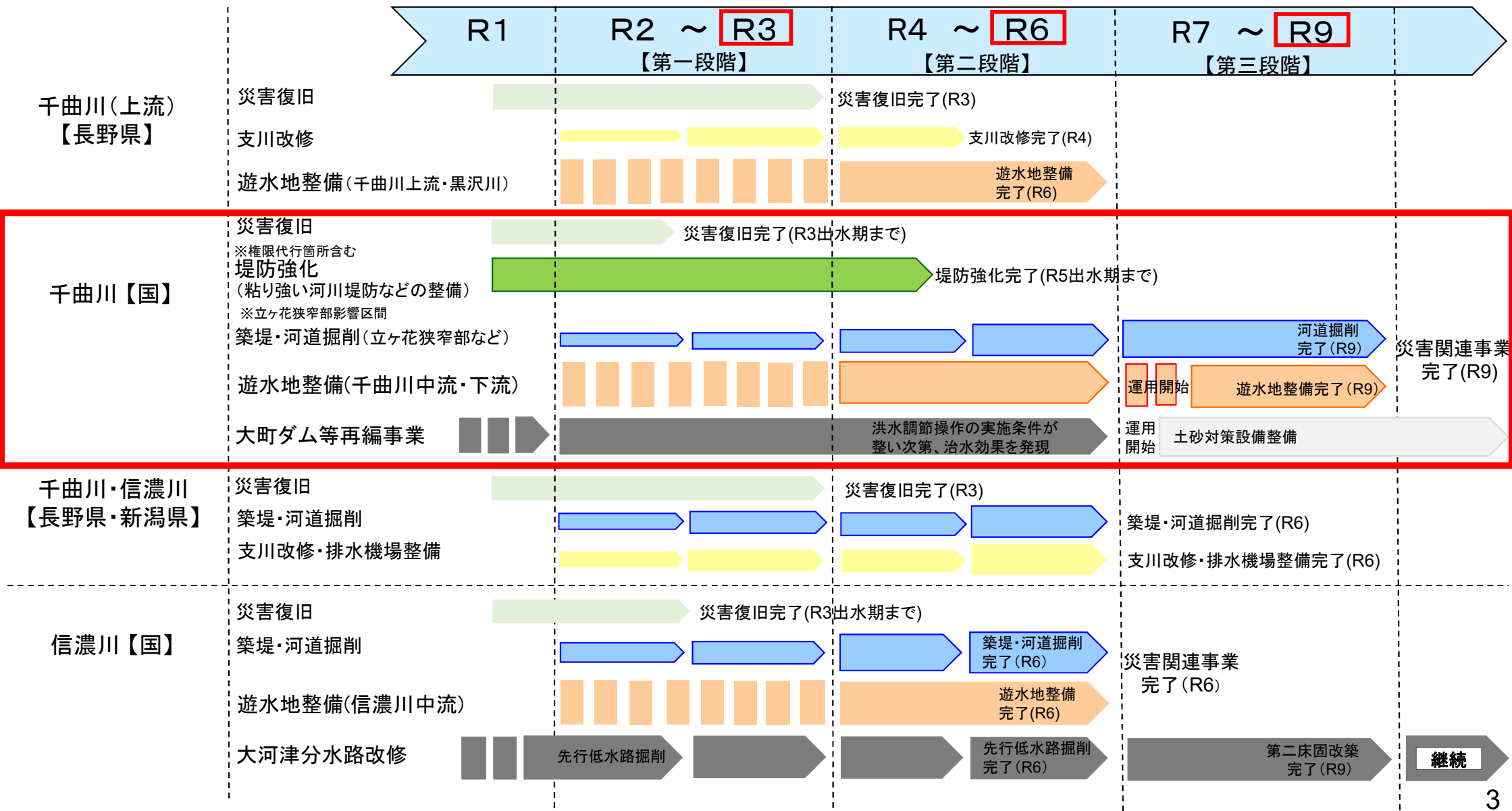
千曲川上流遊水地

凡例	
	流域界
	県境
	河川
	既設ダム(直轄)
	基準地点(高水)
	基準地点(低水)
	主要地点
	想定氾濫区域(国管理区間)
	大臣管理区間



信濃川水系緊急治水対策プロジェクト ロードマップ

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



河川の水位を下げる河川整備、「河道掘削や上流の遊水地整備により水位低下」

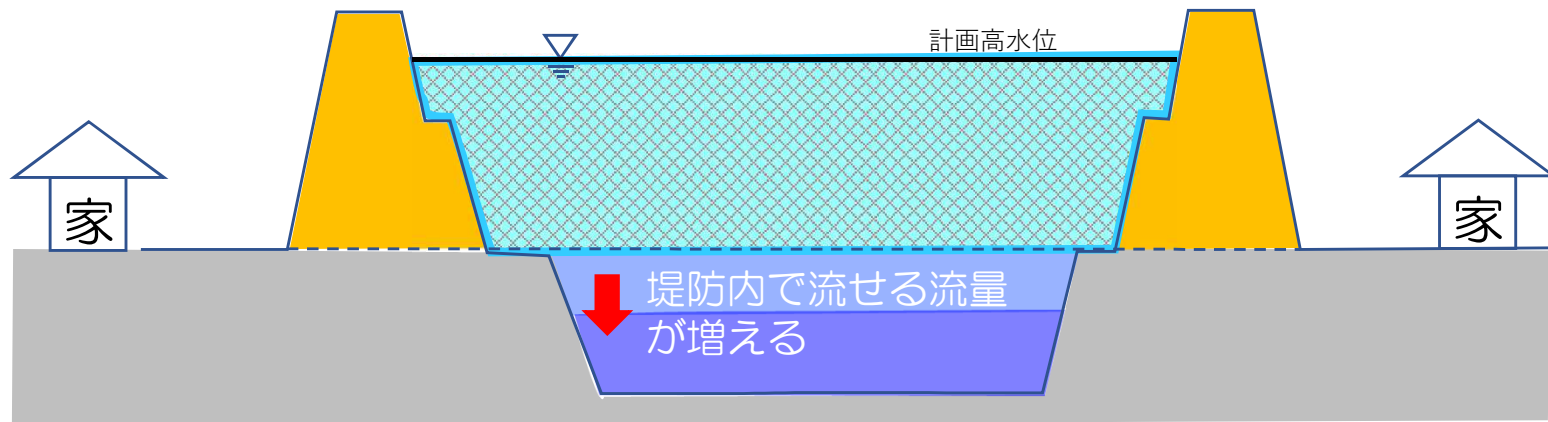
○「河道掘削」や「上流の遊水地等の洪水調節施設」により水位を下げることで水害時のリスクを低下

水位を下げる河川整備

河道掘削で川底を下げる

堤防内で流せる流量が増える

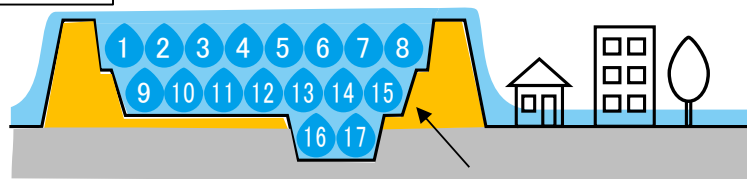
水害時のリスク低下



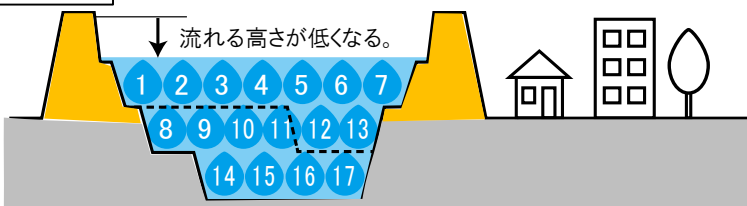
<河道掘削>

川の中の底を掘ると、流れる水の量が同じでも、流れる水の高さが低くなり、安全に流れるようになる。

掘削前

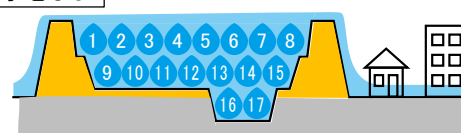


掘削後

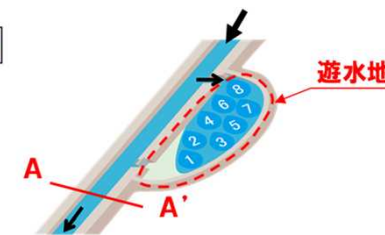


<遊水地等の洪水調節施設>

遊水地なし



遊水地



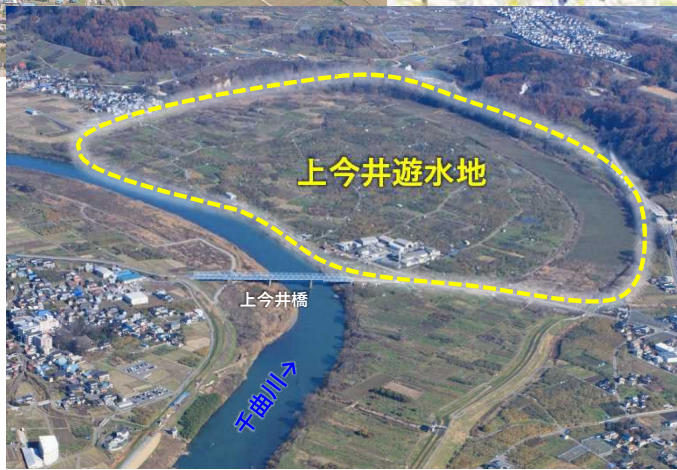
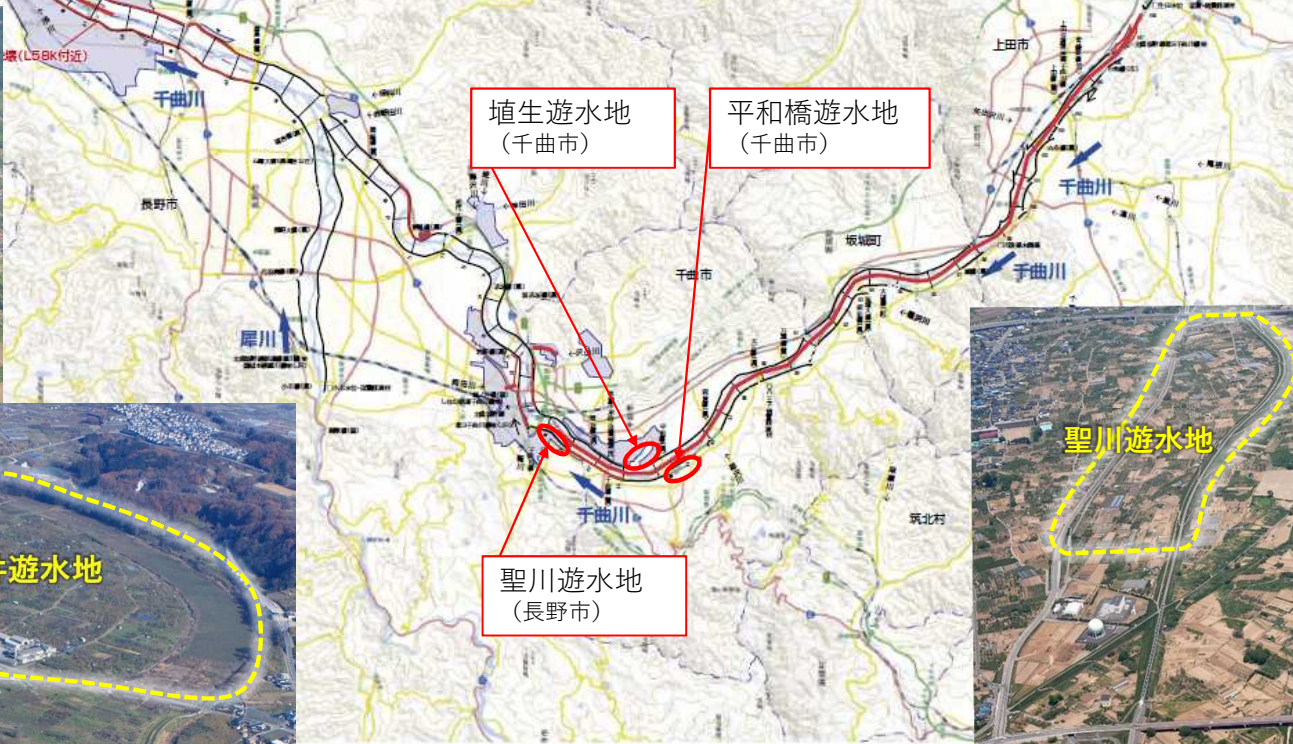
遊水地あり



遊水地に川の水の一部を一時的に貯めることで、下流を流れる水位の高さが低くなる。

遊水地計画地 位置図

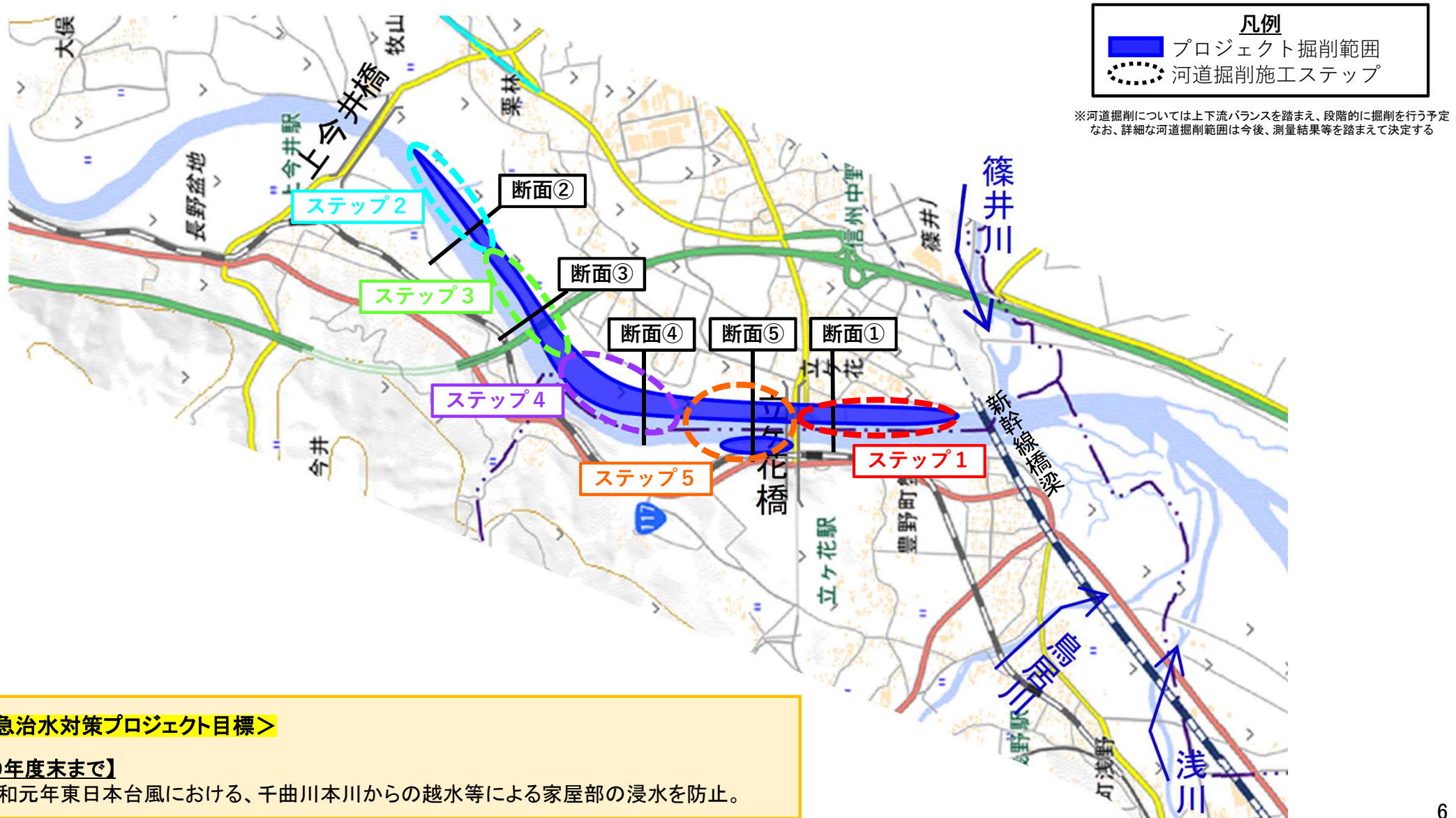
- 令和元年東日本台風に対する治水対策として、直轄管理区間において、5箇所の遊水地整備を予定。
- 令和6年度（若しくは令和9年度）までの遊水地事業完成を目指す。



※遊水地は現在計画検討中であり、範囲等は確定したものではありません。 5

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける河道掘削箇所について(立ヶ花狭窄部)

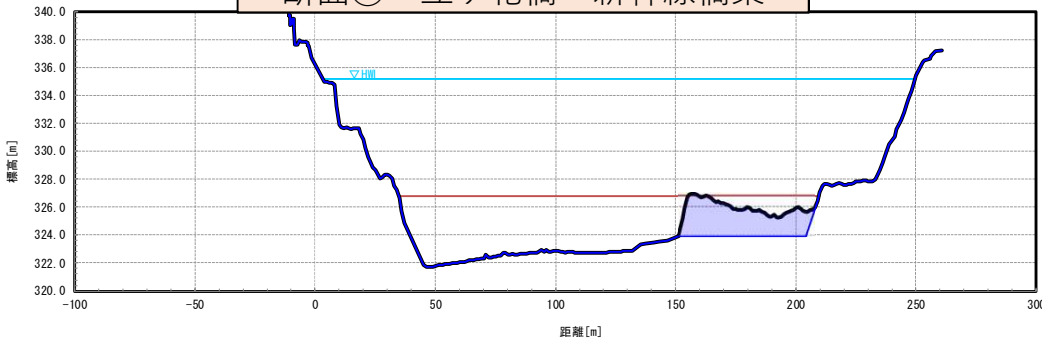
- 信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、立ヶ花狭窄部の掘削を段階的に進める。
- 河道掘削を行う範囲を段階的に広げていき、上流に位置する立ヶ花狭窄部のせき上がりを受けている範囲において、令和元年東日本台風規模の洪水を計画堤防高以下で流下させる(R9年度末まで)



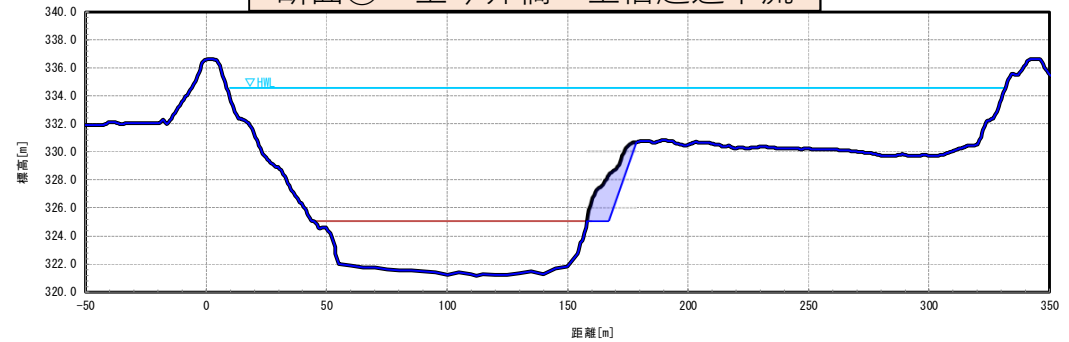
河道掘削の代表断面について(立ヶ花狭窄部)

- 立ヶ花狭窄部における河道掘削箇所の各代表断面は以下のとおり。
- 河道掘削を行うことで洪水時に流れる断面を大きくするだけでなく、冠水頻度が上がることで樹林化も防止することができる。

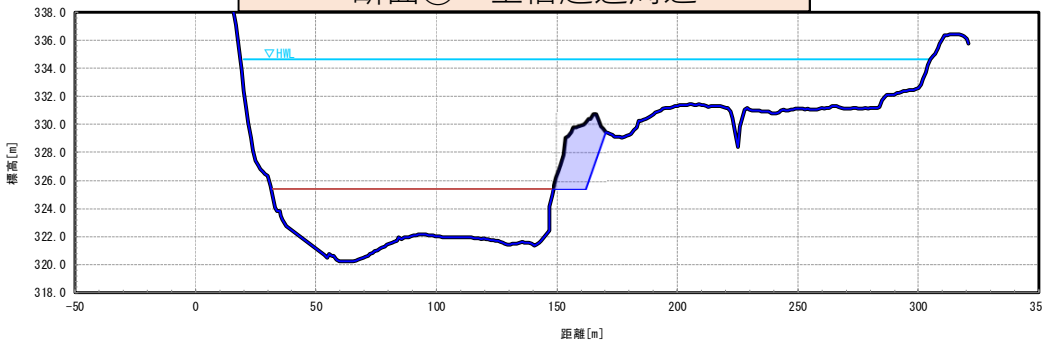
断面①：立ヶ花橋～新幹線橋梁



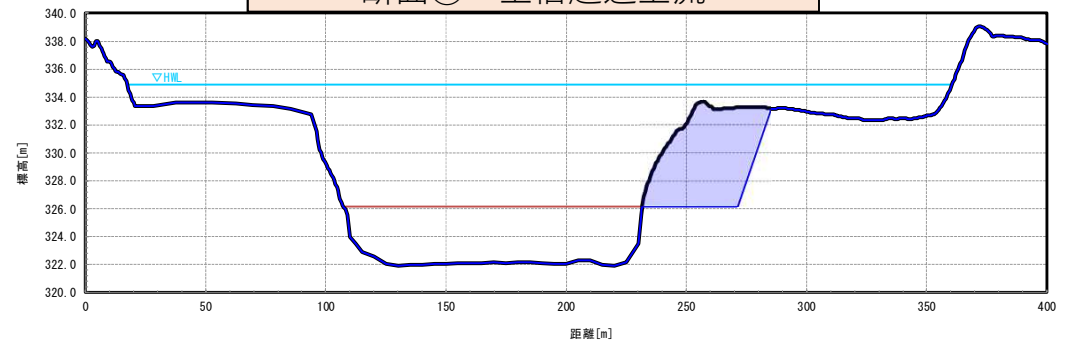
断面②：上今井橋～上信越道下流



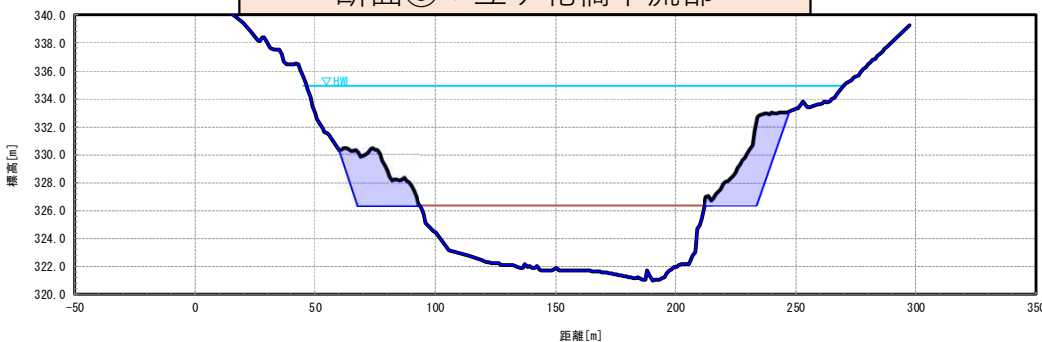
断面③：上信越道周辺



断面④：上信越道上流



断面⑤：立ヶ花橋下流部



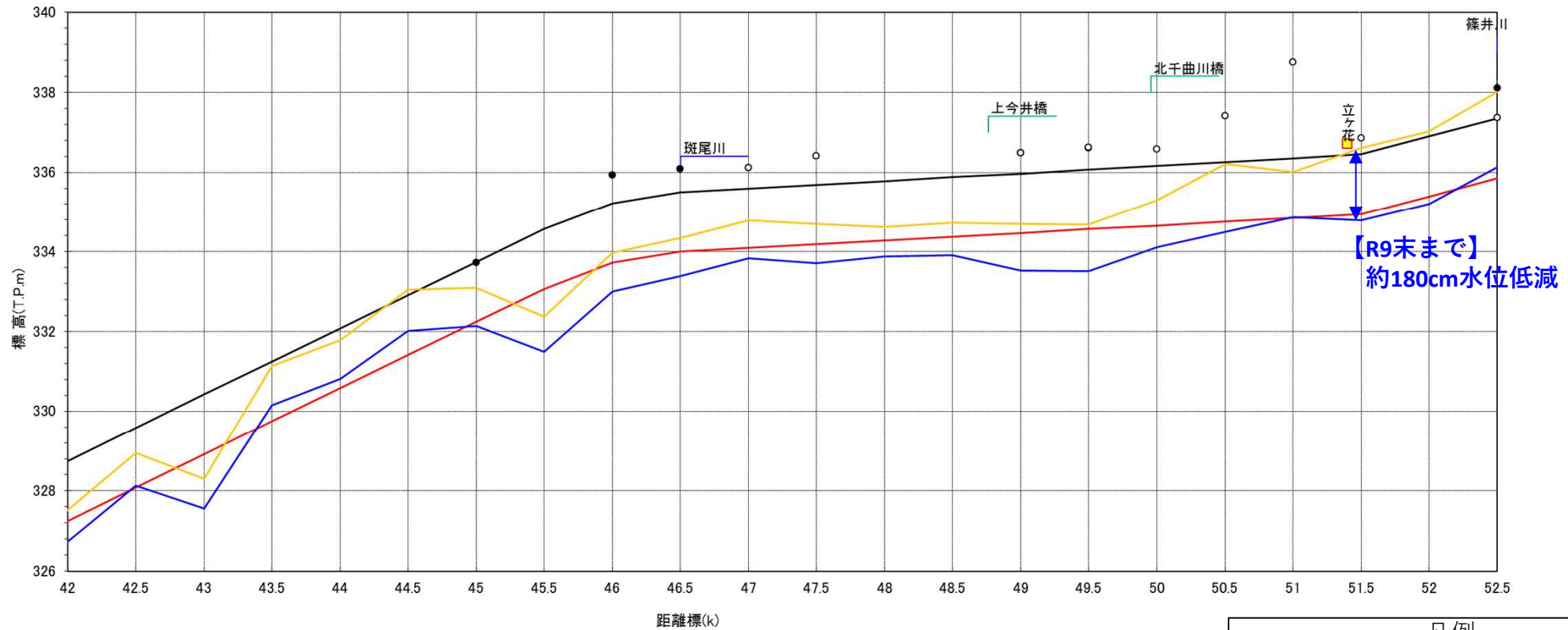
- 【凡例】**
- 現況河道
 - プロジェクト河道
 - 概ね1年に1回冠水する高さ
 - 掘削範囲

河道掘削等の水位低下効果について

【中野市・長野市】

- 令和2年度からの各年の河道掘削により、段階的に水位の低下を図る。
- 令和9年度末までに河道掘削・遊水地の整備と合わせて、約180cm程度千曲川本川の水水位低減させる。

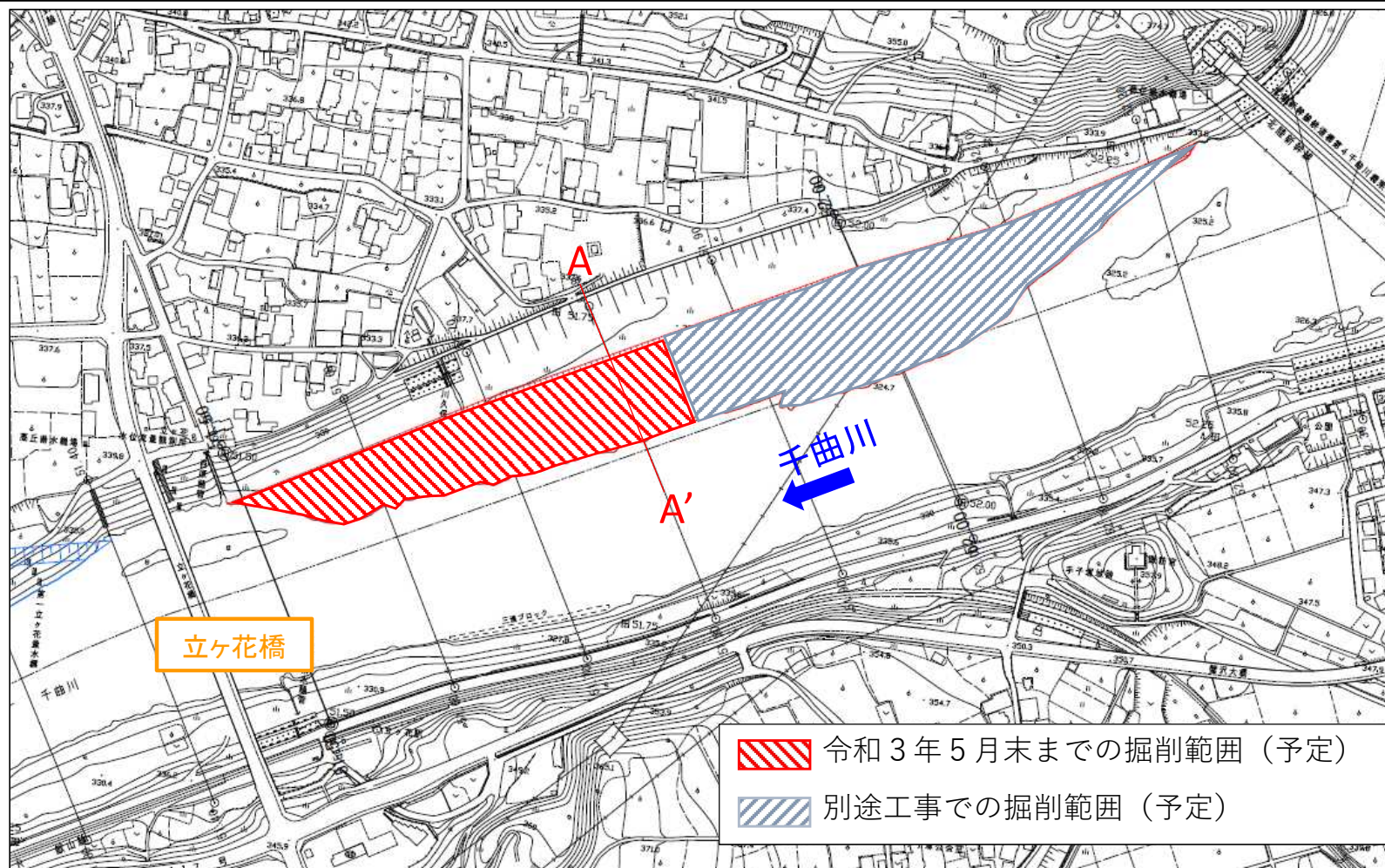
令和元年度東日本台風規模の洪水が
氾濫せずに流下した場合の水位



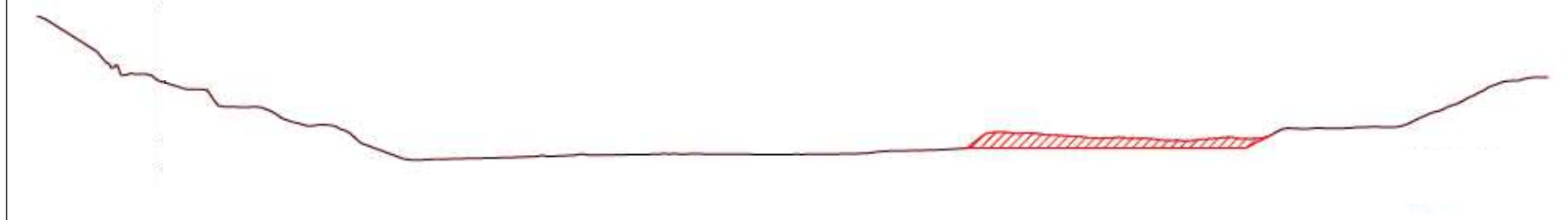
- 凡例
- 計画堤防高
 - 計画高水位
 - 現況堤防高 (左岸)
 - 現況堤防高 (右岸)
 - プロジェクト前の河道での水位
 - R9末までの河道での水位

立ヶ花狭窄部での河道掘削について(施工箇所)

○立ヶ花狭窄部での河道掘削箇所(緊急治水対策プロジェクト)は以下のとおり。

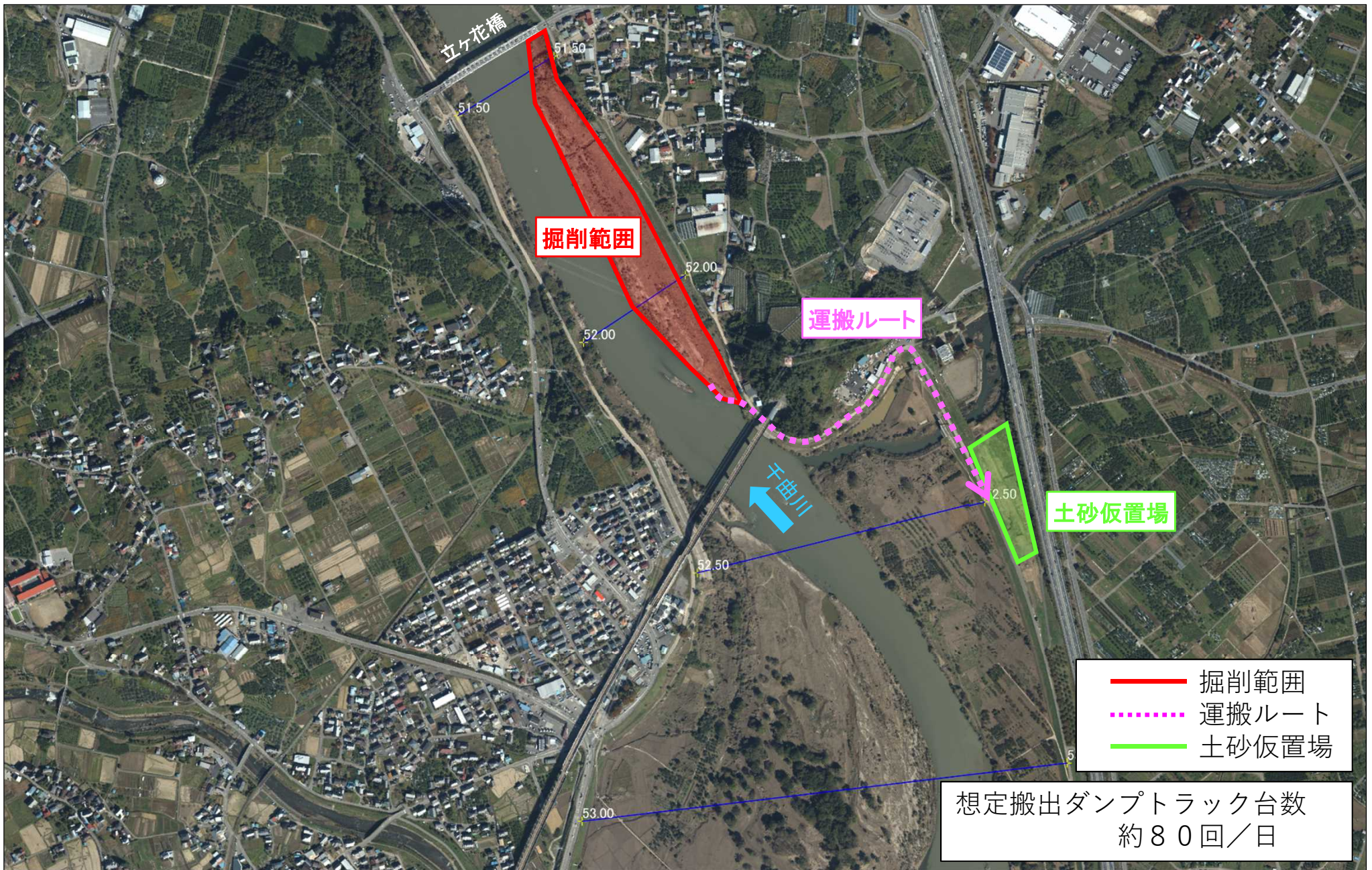


【A—A' 河道掘削断面】



立ヶ花狭窄部での河道掘削について(掘削土砂の運搬ルート)

○河道掘削土砂の運搬ルートについては、以下のルートを予定している。



立ヶ花狭窄部での河道掘削について(作業スケジュール)

○準備工～掘削・運搬までの作業スケジュールは、以下のとおり。

工 種		2月			3月			4月			5月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
準備工	除草・伐開		■										
仮設工	工事用道路		■										■
河川土工	掘削・運搬			■									

<工事情報>

- 施工会社：(株)北條組
- 作業日：月曜日～土曜日(日曜、祝日は休み)
- 作業時間：8:00～17:00(休憩時間12:00～13:00)